



## 子どもの脳とからだ

総合研究大学院大学 名誉教授／長谷川 眞理子

## ヒトの脳の大きさとその発達

ヒトという動物は、大変に大きな脳を持っています。だから、個人がそれぞれいろいろなことを考え、解決法までも考えることができるのですが、それだけではなく、何が問題かということ、みんなで「そうだね」と共有することができます。そして、誰かがその解決法を考えると、みんなで話しあって、どの解決法が一番よいかを見極め、それを共有し、一致協力してその解決にあたるすることができます。こうして、ヒトは、個人が個別に問題解決能力を高めるとともに、互いの心の中の考えを共有し、協力することができるように進化しました。だから、ヒトの脳は大きいのです。その結果、前回述べたように、ヒトにもっとも近縁な類人猿であるチンパンジー、ゴリラ、オランウータンに比べ、ヒトの脳はその3倍もの大きさに進化しました。

ヒトという大きなからだの動物も、妊娠した直後は、単細胞の受精卵です。それがどんどん分裂して多細胞になり、それぞれの細胞が、肺や心臓、胃、腸、筋肉などに分化していきます。脳らしき組織が働き始めるのは胎生の18日目ごろからですが、その後どんどん大きくなり、生まれるときの脳重はおよそ300グラム超になります。そして、およそ3歳になるまで、脳は胎児のころと同じペースで大きくなっていきます。その後は、成長の速度がゆるやかになるので、この事実から、ヒトは、本当は3歳までが胎児なのだと言われるのです。

前回、ヒトの妊娠期間は、体重から推定されるよりはずっと短く、生理的に早産なのだと言いました。なぜそんなことになっているかと言えば、それは、脳が異様に大きいからです。ヒトは、最終的には、同体重の類人猿が持っている脳の3倍もの大きな脳を作らねばならないのですが、類人猿らと同じペースで胎児をおなかの中で育てると、脳が大きくなりすぎて出産ができなくなってしまいます。そこで、まだお母さんの産道から出てこれるほどの大きさのうちに、出産してしまうのです。そこで、その後も3歳までは同じペースで脳を大きくし、追いつかせようとするのでしょう。

3歳児の脳重の平均は1200グラム超です。おとなの脳重の平均を1400グラム前後とすると、3歳児でおとなのおよそ80%ということになります。6歳では、およそ90%に、10歳では95%までになります。だから、子どもはおとなと同じ帽子をかぶることができるのです。でも、10歳ではまだまだからだは小さいです。つまり、ヒトの成長過程では、まずは脳を先に大きくして

おく、という戦略なのです。そういうわけで、赤ちゃんから子どもにかけて、頭でっちな割には胴体や四肢が短いという形状になり、それが、おとなにとってはとても可愛いと感じさせるシグナルとなるわけです。

## 思春期のスパート

さて、10歳ごろには、脳はおとなの95%までに成長すると言いました。これは、単に大きさだけの話なのですが、ともかくも、10歳を越えるあたりで、だいたい脳の大きさがおとなと同じに完成します。そこで、今度はからだです。これまで脳の成長に回していたエネルギーを、今度はからだを作ることに回し、からだを大きくしていきます。それが、「思春期のスパート」と呼ばれるものです（図1、思春期のスパート）。思春期のスパートがいつ始まるのか、それには大きな個体差がありますが、普通は、12歳ごろからでしょう。みるみる手足が伸び、胴体もがっしりしてきて、去年作った服がすぐにはいらなくなるという、あの現象です。

● からだの成長は遅れてやってきて急速に起こる。

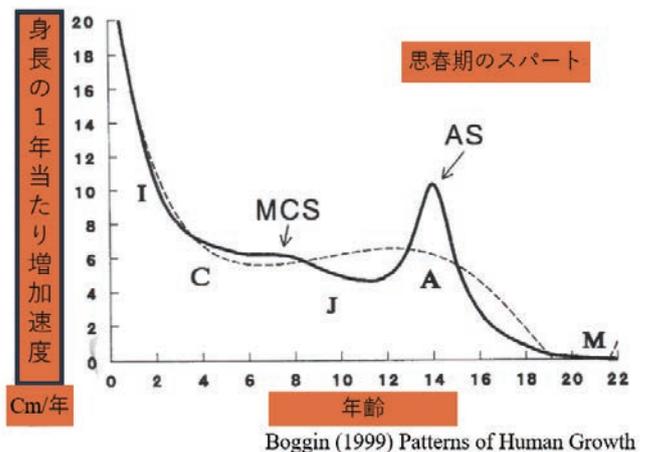


図1 思春期のスパート

思春期のスパートは、ヒトだけの現象なのか、それとも他の類人猿にもあるのかということは、長らく議論されてきました。イヌやネコ、シカなどの普通の哺乳類には、スパートはありません。なぜなら、彼らの脳はとくに大きいわけではないので、個体の成長にあたって、脳とからだの両方を同時に大きくさせていくことができるからです。子どもの脳とからだを成長させるにあたって、双方を同時に大きくさせることはエネルギー的に無理なので、思春期のスパートは、脳の成長を優先させ、次からだに回すという戦略です。

そこで、チンパンジーなどの類人猿は、他の哺乳類に

比べると、からだの割には脳が大きいので、彼らに思春期のスパートがあるのかどうか、気になります。しかし、それを野生状態で調べるのは容易ではありません。そこで、おもに、動物園などに飼育されている類人猿のデータを見ることになるのですが、飼育のデータにはさまざまな制限があり、あまりはっきりしたことは言えません。が、いろいろなことをすべて勘案すると、どうも、類人猿には、はっきりとした思春期のスパートはないようです。

### 脳の機能の発達

言うことで、思春期のスパートという現象は、ヒトに固有のものだと考えてもよいでしょう。ヒトの脳はあまりにも大きいので、赤ちゃんから子どもの時期にかけて、脳とからだの両方にエネルギーを回して双方を大きくさせていくことは不可能なのです。そのため、最初に脳を大きくし、その間はからだを小さくとどめておく、そして、脳が一応の大きさになったところで、急速にからだの成長を追いつかせる、ということなのでしょう。

そうすると、脳の大きさとしては10代前半でおとなと同じ大きさになるわけですが、これはまだ大きさだけの話です。みなさんもよくご存知の通り、大きさとその機能は別です。3歳児の脳重がおとなの80%と言っても、3歳児がおとなの機能の80%を果たせるわけではありません。脳の大きさは、脳がいろいろな機能を果たす上で必要な素材となる神経細胞をそろえたということに過ぎません。それらの素材をどのように組み合わせているか、いろいろな機能を果たせるようにしていくか、それが脳の機能の発達です。

脳は、おもに神経細胞でできていますが、神経細胞どうしをつないでいる部分をシナプスと呼びます。細胞どうしが連絡しあえば、単独よりも多くのことができるようになるので、どの神経細胞どうしをつないでシナプスをつくるかが、とても重要になります。しかし、ヒトはどんなところで育つのか、どんな環境からの情報があるのか、実には多様で、本人にとって生きていく上で何が重

要なのかは、あらかじめわかりません。

そこで、ヒトの脳は、まずはさまざまな方向にたくさんシナプス結合を作り、以後、その子が生活していく中で、あまり使われなかった結合は捨てる、という戦略をとっているようです。これをシナプスの刈り込みと呼びます。子どもの脳では、2歳ごろまで、そんなことが起こっています。2歳ごろまでの赤ちゃんでは、ときに、おとなから見て何が具合が悪いのかまったく理解できず、どんなにあやしてもわんわん泣きやまないことがあります。それは、シナプスの配線が混乱しているからなのかもしれません。

ヒトは言葉を話しますが、言語の習得は、ヒトに固有の現象です。2歳ごろから徐々に言葉を習得していきませんが、1日に何語覚えるかの速度が非常に速いこと、そして、言葉の習得には、それほどはっきりとした報酬が必要ないことが特徴です。そして、自分と他人の心の区別、立場の区別などがわかり、その違いを理解した上で他者への共感やなぐさめなどができるようになるのは、およそ4, 5歳と言われています(図2、4歳幼児における他者へのなぐさめ(友達が敗者になったとき))。そこでようやく、おとなと同じような心を持つことができると言えるのでしょう。



図2 4歳幼児における他者へのなぐさめ(友達が敗者になったとき)

**私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます!**

**ゴツン!! から、まもってあげたい。**

子どもの頭を守る帽子

企画・開発 **株式会社リード**

〒028-6104  
岩手県二戸市米沢字家ノ139-1  
<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら  
**アルファアattend株式会社**

TEL 070-5550-1982  
FAX 042-673-2076  
[alpha.attend@gmail.com](mailto:alpha.attend@gmail.com)



## 幼小の連続性を考える①

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一



### ■幼稚園教育要領の変遷

幼稚園教育要領が平成元年に改革され、保育の組み立ての視点でもある象徴的な六領域は五領域に変更されました。それまでの小学校の教科に準拠した領域から、子どもの生活や遊びを総合的にとらえ、その遊びを観る視点に位置づきました。教科と符合した保育の組み立てから、子どもの興味関心や主体性を大切に保育へと大転換されたとも言えます。

平成10年の改定では、子どもの発達は一様ではなく一人一人バラバラで、個々に相応しい環境構成の大切さが求められ、各幼稚園もクラスみんなで指導計画通りに保育活動を進める一斉保育から、一人一人の子どもの思いや選択を重視した保育活動に変更するよう徐々に変化してきました。平成時代にはほぼ10年おきに教育要領は改定されて現在に至っています。

全国の先進的な幼稚園は園庭や保育室の環境を子どもがより興味を持つであろう環境に変化させるため、これまでの平坦なグラウンドから、起伏にとんだ園庭づくりに着手し、様々な樹木や果樹の植栽や花壇がつけられ水辺ができるなど、子どもたちの好奇心が喚起され、自然な環境で様々な体験や豊かな遊びが誘発されるような環境構成が行われてきました。

一方、保育室の中の環境も、子どもが自ら選んで遊べるような玩具が揃えられ、自ら選択して遊べる環境が構成されました。年長のクラスなどにはボードゲームが用意されたり、古着の子供服やアクセサリなどもあって、ごっこ遊びも盛り上がります。

いつでも描画できる絵の具などの設定の工夫もされています。従来一斉に描画活動をさせていた指導から、子どもが表現したいときに取り組めるような環境が設定されます。子どもたちは登園し身支度を整えると、「誰と、どこで、何して遊ぶ」を自ら決め、長い時間集中して遊

ぶ姿が見られるようになってきています。その生き生きした躍動的な姿は、一人一人の資質・能力の萌芽が予見されます。そして、自分の遊びを紹介しあうなど、クラスのミーティングが行われ、翌日に向けて期待も膨らみます。

### ■6歳の誕生日の翌年4月には小学校に就学させる義務が保護者にある

このように園生活を主体的に楽しみ伸びやかな毎日を過ごしてきた年長が、真新しいランドセルを背負って4月から小学校に進学します。日本の法律ではその年齢で小学校に入学させる義務が保護者に課せられています。地域によって異なるようですが、心身や発達に障がいがあり、皆と一緒に授業を受けることが難しい児童も、校区の小学校に進学し落第することはありません。そしてその年度の学習が十分に達成していなくても次の学年に進級し、小学生は6年間で卒業します。

世界的にみると入学制度はさまざまで、欧米では何歳になろうとも保護者と子どもが小学校に入学したいと申し出れば、子どもを入学許可する義務が国に課せられているところもあります。イギリスの小学校は望んだ時に入学できます。理論的には3歳でも10歳でも小学校入学が可能です。十分な成績が取れなければ落第もあります。知り合いのイングランドの家庭では、就学年齢に達しているのに2年間シュタイナー幼稚園に通い続け、2年間就学を猶予し8歳で子どもを入学させました。現在その子どもは二十を超え、パイロットとして世界の空を飛び回っています。この話を聞いたとき、保護者や子どもの主体的な選択が保証されていることに羨ましさを感じたことは事実です。このような現実の中で今、幼小の接続が問われています。

2025年2月号に続く

保育園・幼稚園  
導入実績  
No.1

園業務のお悩みを  
IP無線機  
で解決します!

株式会社 ニシハタシステム

タレント・俳優  
杉浦太陽

## 共同宣言ならびにパートナーシップ協定などを承認

### ● 11.11 第3回理事会

11月11日、第3回理事会が対面とオンラインの併用にて開催され、理事19人が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、杉山一夫理事、田中伸宜理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

#### 【決議案件】

#### 1. 共同宣言ならびにパートナーシップ協定の承認の件

川名マミ副理事長より現在の機構と全日本私立幼稚園連合会それぞれの団体の建付けと役割及び「共同宣言」と「パートナーシップ協定」の文書の建付けイメージの説明がありました。

また、安達謙副理事長より「共同宣言」と「パートナーシップ協定」の内容詳細について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 2. 令和7年度以降の収入の在り方の承認の件

昨年度以前の検討の経過及び、その経緯を踏まえた令和7年度以降の収入の在り方について説明をし、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 3. 賛助会員入会の承認の件

事務局より賛助会員入会の説明があり、審議の結果、株式会社エコテックの入会が満場一致をもって承認されました。

#### 4. 講師及び原稿執筆等謝金に関する規程の承認の件

事務局よりオンデマンド研修の動画編集を始めとした、講師及び原稿執筆等謝金に関する規程の変更内容について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 5. 令和6年度第3回評議員会開催の承認の件

議長より令和6年度第3回評議員会開催について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

#### 【報告案件】

#### 1. 業務執行理事からの執行報告

業務執行理事より業務執行状況について報告をいたしました。

- ・第15回幼児教育実践学会開催状況について
- ・ECEQ<sup>®</sup> コーディネーター養成講座の実施状況について
- ・12月から配信を開始する36コンテンツのオンデマンド研修について
- ・まなびの広場とこどもがまんなかしんぶんの発行状況と今後の発行予定について
- ・公益認定の再取得に向けた取り組みについて
- ・事務局との連絡会の実施状況について
- ・事務局員の採用活動の状況について

### ● 11.25 第3回評議員会

11月25日、第3回評議員会がオンラインにて開催され、評議員9人が出席しました。安家理事長のあいさつ後、出席した評議員の互選により、山崎英明評議員が議長に選任され、議事録署名人に永保貴章評議員、加藤義彦評議員が選出されました。議事内容は以下の通りです。

#### 【報告案件】

1. 共同宣言ならびにパートナーシップ協定の件
2. 令和7年度以降の収入の在り方の件
3. 賛助会員入会の件
4. 講師及び原稿執筆等謝金に関する規程の件
5. 理事会からの執行報告の件

各議題で質疑応答や意見交換がなされました。

(専務理事 加藤篤彦)



### 第16回幼児教育実践学会の開催について

第16回幼児教育実践学会も対面で開催することとなりましたので、開催予定日と開催予定会場をお知らせいたします。ぜひ、参加をご検討ください。発表に関する詳細は令和7年2月以降に、参加に関する詳細は令和7年5月以降にそれぞれお知らせの予定です。

#### ■開催予定日：

令和7年8月19日(火)・20日(水)

#### ■開催予定会場：

東京・東京家政大学板橋キャンパス

※変更の可能性がありますことを予めご了承ください。

## 第15回幼児教育実践学会口頭発表(東大野幼稚園)

# 自然体験を通して 心豊かにたくましく生きる力を育む ～「10の姿」をもとに子どもの成長を捉えながら～

長崎県 東大野幼稚園／谷川 慶子 山内 咲耶 山口 結依子  
長崎短期大学教授／中尾 健一郎 先生

本園で行っている自然体験や山登りでは、子どもたちの興味・関心を刺激し、園生活で獲得できない多くの経験や体験ができると考えています。子どもたちの遊び込める要素が多く、心の変容や体の使い方などの成長が顕著で、個人だけでなく子どもたち同士の協働性や思いやりなど関わりが深くなる姿が見られることに気づきます。本研究では、自然体験に取り組む子どもたちのエピソードを記録し、体験後の子どもたちの心や体の変化も聞き取りながら、その実態を明らかにし、幼児期に育ってほしい10の姿をもとに子どもの成長を捉え、自然体験・山登り体験の効果を検証しました。

### 1 「健康な心と体」

- ・体力や持久力が向上し、歩くスピードが速くなっている。
- ・不規則な道はバランス力・調整力などを身につけ転ばなくなった。

### 2 「自立心」

- ・自力で歩き転んでも泣かなくなった。
- ・弱音を吐くことなく、諦めずに頑張るようになった。

### 3 「協同性」

- ・友だちに声をかけたり、励ましたり、手を差し伸べたりしていた。
- ・同じ目的に向かって共に活動することで仲間意識が高くなった。

### 4 「道徳性・規範意識の芽生え」

- ・けがや事故などの危険が伴うのでルールを守ろうとする。
- ・「山道は一行で歩くよ」「順番守って」「ここ危ないよ」と考えて歩く。

### 5 「社会生活との関わり」

- ・園外活動は、出会う人に対して挨拶をしたり問いかけに答えたりしている。
- ・公園などの公共施設の利用や物の使い方を知り、大切に使用している。

### 6 「思考力の芽生え」

- ・木の根、ぬかるみなど、どの道を通ればいいのか状況を判断して歩く。
- ・自然のものに興味関心が強くなり、観察したり図鑑で調べたりする。



### 7 「自然との関わり・生命尊重」

- ・草花や昆虫などを観察、採取、見る、聴く、嗅ぐ、触る、味見など五感を使っている。
- ・生き物の生態系を知り、命にふれる。

### 8 「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

- ・歩く途中の案内看板の文字や数字を読みながら歩いている。
- ・葉っぱや石の大きさや形、色の違いなどに興味を持ち質問している。

### 9 「言葉による伝え合い」

- ・先頭集団の子どもたちが、遅れている友だちに「ここ滑るからきをつけて!」「坂があるよ」「頑張れー」と励ましの言葉、注意を自発的に行っている。
- ・子ども同士の会話が増え楽しむ姿があった。

### 10 「豊かな感性と表現」

- ・木や岩など観察したものをイメージして表現していた。
- ・「この景色がご褒美だね!」と山頂の景色が綺麗と感じることができた。

自然体験・山登りの経験・体験の中で、学年（年齢）ごとに発見した特徴がありました。

年少組は、教室の外に出かけるだけで、わくわくして喜びに繋がって楽しんでいました。年中組は、自然体験や山登りの中に自分の興味・関心があるものに出会えると喜びがありました。「小さな発見が大きな喜び」でした。年長組は、意欲や体力が向上しており、単純な山歩きでは満足せず、山の頂上を目指したり、挑戦したり、探検したり、仲間と協力をしながら集団で目標達成することに喜びや楽しさがあることを発見しました。

教室の中での保育・教育以上に、自然体験・山登りは子どもたちののびのび・生き生きとした姿がありました。体を動かし、心を動かし、人間関係を動かすことができ、子どもたちの豊かな心の形成に繋がる大切な活動です。安全確保をしながらも職員の指示を最低限に抑え、子どもたちを信じて任せながら主体的に行動させる場面を作ることが大切だと思いました。「幼児期に育ってほしい10の姿」の多くを活動の中で見ることができました。



# 保育の未来をつくる!富山型ミドルリーダー研修の歩み

富山県 堀川幼稚園／波岡 千穂  
リンデ幼稚園／藤島 秀恵

認定こども園いずみ幼稚園／原田 由美  
あおい幼稚園／千々石 寿史

研究協力者：大妻女子大学教授／岡 健 先生

この度、第15回幼児教育実践学会において、「富山型ミドルリーダー育成研修システム」について発表いたしました。この研修システムは、ECEQ<sup>®</sup>公開保育の普及と理解に繋がる取り組みを基盤とし、各園でのファシリテーター（ミドルリーダー）育成を目的としています。今回の発表を通じて、私たちが学んだことと今後の課題を以下にまとめます。

## 1. 成果とその影響

ミドルリーダー研修システムには、次の3つの柱が網羅されており、2年間で全てを受講することになっています。

- ① 分野別キャリアアップ研修（幼児教育・保育実践、乳児保育、特別支援、幼小接続、保護者支援・子育て支援、保健衛生・安全対策）
- ② ファシリテーション研修
- ③ ECEQ<sup>®</sup>公開保育への参加（事前、事後研修を含む）

これにより、ミドルリーダーがより専門性を持った保育者として成長し、富山県全体の加盟園に配置されるようになりました。この成果は、各園において保育の質を向上させ、より高度な専門性を持つ人材が育成される基盤を整える大きな一歩となっています。

また、ECEQ<sup>®</sup>公開保育への参加を取り入れることで、受講生同士の学び合いが促進され、他の園での実践例や成功事例を共有することで、自園の保育に新たな視点を取り入れることが可能になりました。これにより、各園での保育の質が向上し、教育・保育現場でのリーダーシップがより実践的に発揮されるようになったのです。

さらに、継続的な研修を通じて、研修参加者のスキル向上と意識改革が進み、園全体の取り組みが一層充実したものとなりました。特に、ファシリテーターとしての役割を果たすリーダーたちが増えたことは、園内での指導力の強化や後輩の育成にもつながり、組織全体の成長を後押しする大きな要因となっています。

そして、ミドルリーダー研修を修了した参加者（認定者）からは、さらに学びを深める環境が求められたことから、新たにフォローアップ研修が始まりました。このフォローアップ研修は、認定後も継続してスキルを磨き、最新の保育理論や実践を学ぶ機会を提供することで、ミドルリーダーとしての役割をさらに強化する狙いがあります。

## 2. 今後に活かしたいこと

今回の発表を通じて、ミドルリーダー育成研修を実施しながら改善されてきたプロセスを改めて振り返ることができました。この発表は、私たちにとって立ち止まってゆっくりと考える貴重な機会となり、今後の研修の在り方を見つめ直す契機となりました。

今後は、研修の質をさらに向上させるために、受講生が基礎から段階的に学び、実践につなげられるようなカリキュラムの構築を目指していきます。また、フォローアップ研修の充実を図り、学び続ける環境を提供することで、各園での園内研修の体制をより確立し、ECEQ<sup>®</sup>の普及と理解を促進していくことに注力します。これにより、各園が外部からの学びを積極的に取り入れつつ、自らの判断と協力を基に「自律的に」学び合う文化を育て、継続的に保育の質向上を追求できる体制を築いていきたいと考えています。

なお、ミドルリーダーの皆さんの成長を見守る中で、私たち富山県私立幼稚園・認定こども園協会 教育研究委員兼ECEQ<sup>®</sup>コーディネーターもまた「自分も負けてはられない」という気持ちで日々研修に臨んでいます。学びには終わりがなく、これからも共に成長していくために、私たち自身も常に挑戦し続けることが求められます。さて、次はどんな課題が待っているのか…楽しみ半分、ちょっぴり不安半分ですが、頑張ってみます！

講義や演習、自園での実践を通じて、ファシリテーションスキルを高める岡健先生によるファシリテーション研修「保育の質を高める！～V」

	午前	午後
第一回	講義Ⅰ (基礎編Ⅰ) ※1年次対象(兼キャリアアップ研修) 「学び合う組織の風土づくりのために主任・ミドルの役割と人材育成」	
第二回	講義・演習Ⅱ (基礎編Ⅱ) ※1年次対象 「「吹き出し」からお便り作成へ」	【宿題】保護者に伝えたい子どもの写真を持参する
第三回	講義・演習Ⅲ (基礎編Ⅲ) ※1年次対象 「Activity 文殊Map の習熟」	【宿題】「お便りのワーク」を若手に実施してくる
第四回	講義・演習Ⅳ (応用編Ⅰ) ※2年次対象(1:1研修実施者もファシリテーター) 「ファシリテーションの習熟① お便り作成のサポートを通して」	※2年次対象 「ファシリテーションの習熟②」 午前中の取り組みを振り返って
第五回	講義・演習Ⅴ (応用編Ⅱ) ※2年次対象(1:1研修実施者もファシリテーター) 「ファシリテーションスキルの習熟②」	※2年次対象 「ファシリテーションスキルの習熟②」 午前中の研修を題材に振り返ろう！

### 基礎編Ⅰ～Ⅲ(1年次対象)

ミドルリーダー研修やキャリアアップ研修と連携し、「学び合う」に焦点を当てます。具体的なアクティビティに取り組むことで子どもの姿を捉える力を育むファシリテーションを学びます。

### 応用編Ⅳ・Ⅴ(2年次対象)

応用編では1年次にファシリテーションを実践し、振り返ることでスキルアップを目指します。さらに認定者にフォローアップ研修も実施しています。「ファシリテーションの習熟①」や「研修内容の振り返り」を大切に、さらに実践的なスキルを磨きます。

# 既存の遊び場をもっとよくするには ～「あつまれ!かえでの森」プロジェクトを通して～

広島県 かえで幼稚園 / 伊東 広大 中丸 元良 中丸 創  
久田見 暁 石本 純子

## 研究の概要

本園には大きな森が隣接しており、クラス活動の時間に森に探検に出かけたりタケノコを取ったりしていました。しかし、普段は森の中で遊ぶ子どもの数が少なく、森での遊びも探検やがけのぼりなどのアスレチック的なものばかりで遊びの広がりや物足りなさを感じていました。

そのため、今まで以上に森を活かした保育ができないか、ということの研究のテーマとし、まずは保育者も森に親しめるよう、子どもと共に森に入り、竹での楽器作りやツタを使った籠作りなどに取り組むことにしました。しかし、これらの遊びは結果として保育者がいないと成り立たず、子どもたちだけで遊びが継続することはありませんでした。その後の話し合いを通して、保育者が直接遊びを広げていくのではなく、環境に手を加えることで間接的にアプローチをする必要性が見えてきました。

そして、「子どもたちが自然に集い、遊びが始まる(あつまる)」「遊びが発展するような基地になる(いすわる)」「運動だけでなく、腰を下ろして遊ぶことができる(たちよる)」という3点を満たすような場所になるよう、木を数本伐採し、森にスペースを作ることにしました。

## ポスター発表に求めること

以上の実践研究をまとめていくうえで、どのようなポスターを作るか、どのようなポスター発表を行いたいのかを検討しました。ただ一方的に研究成果を発表するだけでは、時間をかけてポスターを作るコストに見合わない

いと考え、参加者とディスカッションが盛り上がり、発表者自身にも学びがあるポスター作りを目標としました。

そのために、まずポスターの文字を可能な限り減らしました。語っていない部分をあえて作ることで、質問という形で会話が始めると考えたからです。また、園庭に森がない園の参加者とも議論ができるよう、議論を段階抽象化したうえで、すなわち、遊びのパターン化という問題をポスターの軸に据え、議論を森に限定しないことで、様々な環境をベースに議論ができるようにしました。

## 実際にポスター発表をしてみる

ポスター発表での参加者の皆さんとの会話は、様々な話題に広がりました。これは人それぞれに関心を持つポイントが違うということであり、発表者自身も相手に合わせて、研究の内容、ポスターに書かなかったことまでも再構成しながら話す必要がありました。相手と興味や関心を共有しながら進む対話は必然的に緊張感のあるものになりました。そして、その緊張感がお互いに自身の園での実践と結びつくような議論をもたらしました。この充実したやりとりの時間によって、発表者も自分たちで作ったポスターへの理解をより一層深めることができました。



## —保育室の環境作りで子どもも私も変わる—

福島県 福島めばえ幼稚園／坂本 万純

研究協力者：國學院大學助教／中野 圭祐 先生

子どもにとって“遊び＝学び”であることは理解していたものの、当園の子どもたちは本当に遊んでいるのか、保育者は子どもたちが遊びへ向かう意欲を引き出しているか疑問に思っていました。また、子ども一人一人の「したい」を実現させたいが集団での関わり方の難しさなど私自身の保育の中での悩みもありました。

令和4年度に園内研修で國學院大學の中野圭祐先生を講師としてお迎えし、保育環境の意味や環境構成について学び保育の見直しをし、今回4つの実践例から発表しました。実践を行う中で人的環境について課題が出たので令和5年度には講師との合同保育を行い、保育環境を検討しました。

1日目は、保育後に保育者と子どもの距離感や立ち位置を確認するため、全員分の椅子を並べ置き場を決めたり、製作コーナーの設定で片付け場所や表示をつけ、紙やテープの種類や量を選別したりしました。3時間かけて室内を整え、一つ一つの意味や意図性を教わりました。環境はいつも同じではいけないと改めて感じました。

2日目は、中野先生と共に保育を行い、先生が瞬時に子ども一人一人の発達や興味、遊びの質を読み取り、全体を見ながら適切なタイミングを逃さずに関わる姿を目の当たりにしました。

### 【合同保育から学んだこと】

常に子どもの成長を促すために、全力で保育すること、そして子どもがやりたい！楽しいと思うきっかけを作る援助の重要性を感じました。物の設定は遊びのきっかけであり、大切なのは保育者の関わりであることを特に強く感じたので、子どもが楽しんでいることや夢中になっていることから、次の遊びにつながるような具体的に適切な援助ができるよう意識していこうと思います。

### 【子どもの変化】

子どもたちは遊びに目的をもち、継続して遊び込むようになり、経験の積み重ねから遊びのアイデアが豊富になっていきました。また、子ども同士の対話が増えるなど、保育者の意識や環境が変わったことで子どもが自ら遊びに関わるようになりました。

### 【私の変化】

今までは「子ども主体」を意識して子どもの声を拾い保育展開してきたつもりでしたが、保育者の思いが先行していたことに気づきました。また、中野先生との合同保育から、幼児の発達理解を深め、子どもの今！その瞬間を逃さない保育者の感性・知性・理性、そして判断力

を洗練していきたいと思えました。物的環境＋保育者の人的環境が大切であり、それが相乗効果となり遊びが豊かになるような保育を心掛けていきます。(坂本)

### 【新しい研修のありかた】

この度の研修は他に類を見ない研修となったと実感をしています。保育経験のある養成校教員が保育現場にどのように指導を行えるのかの新たな試みでした。私としては子ども達との関係性もない中で勝手なことは言えませんので、前日にも保育に入らせていただき、子どもやクラスの雰囲気をつかむ時間をいただきました。また、保育後に一緒に保育室の環境作りを行えたことも大きな意義があり、環境に意図を込め、環境により遊び保育を実現していく方法を直接伝えることができました。保育が子どもにとって充実したものになるかどうかは環境によって決まります。子どもの実態からねらいを導き、それに応じた環境をどう作るのかという点が教員の方々に伝わったことは大変大きな成果です。私自身の子ども達への援助からも学びが得られたとのことですが、これについては先生方一人一人の個性や良さが発揮されていくことを願っています。(中野)





## 令和6年度第3期オンデマンド研修36コンテンツが新たに加わりました!

ゆたかなまナビは全国の先生方によりよい学びの機会を提供することを目的に、各地区から提供された優良研修コンテンツを中心に様々な研修コンテンツを配信しています。

研修会場への距離や受講する時間が合わないなどのハードルを超えてだれでもいつでも学びたい時に学べる環境を整え、全国の園の質の高い教育・保育を支えてまいります。



### オンデマンド研修概要

- 申込期間：令和6年12月2日（月）10時～令和7年2月27日（木）17時
- 配信期間：令和6年12月2日（月）10時～令和7年2月28日（金）17時
- 申込方法：教職員登録のうえ、ゆたかなまナビよりお申し込みください。
- 研修スタンプ：研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は2回まで）
- 処遇改善等加算Ⅱ：対応しています。
- 受講方法：お申込後、登録したメールアドレスに届くメールもしくは、ゆたかなまナビマイページに掲載の動画視聴URLより受講ください。
- 受講料：研修によって異なります。ゆたかなまナビでご確認ください。
- 支払方法：クレジットカード決済／コンビニ決済

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
乳幼児理解 生活と遊びを支える保育者の関わり	瀧 薫（大阪芸術大学短期大学部保育学科 教授）	1.5	A2
乳幼児期の食育	小川 雄二（名古屋短期大学保育科 教授 他）	1.0	A2
就学前施設の保健指導～保健指導の苦手を克服しよう!～	船木 桃（学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園 看護師）、福島 美由紀（社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園 看護師）、小倉 理沙（社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぼんぼこども園 看護師）	0.5	A2
教育保育施設における看護職の役割	福島 美由紀（社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園 看護師）、船木 桃（学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園 看護師）、小倉 理沙（社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぼんぼこども園 看護師）	1.5	A2
保育事故防止の取り組みについて [改訂版]	鮎川 剛（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	A3
社会人マナー②危機管理&子ども虐待の再確認研修	斎木 里奈（株式会社こども保育環境研究所）	1.5	A3
遊具安全点検について	鮎川 剛（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	0.5	A3
バス運行の安全確保について	平野 豊（株式会社ジャパン・リリーフ）	0.5	A3
保育環境としての通園バス～安心・安全の先を目指して～	境 愛一郎（共立女子大学家政学部児童学科 准教授）	1.0	A3
健やかな成長のために～幼児期から摂りたい不足している栄養～	岡部 聡子（郡山女子大学家政学部食物栄養学科 教授）	1.0	A5
豊かな遊び体験を通して自ら考え自ら判断して自ら行動する子供を育てるために	佐々木 豊志（青森大学総合経営学部 教授 他）	2.0	B3
社会人マナー①接客&業務の遂行の基本動作研修	斎木 里奈（株式会社こども保育環境研究所）	1.5	B4
園内研修のあり方 園内研修（共に育つ）を通して見えてきた保育現場での変容と今後の課題	村岡 直子（佐賀女子短期大学附属ふたばこども園 副園長）、田島 大輔（和洋女子大学こども発達学科 助教）	1.0	B5
ラーニングストーリーによる保育者、保護者、子どもを繋ぐ記録の考察～保育者と保護者の視点変革:子どもが力を発揮する環境を創造する～	照井 悠斗（幼保連携型認定こども園おかだまのもり 年長組リーダー）、井上 優美（幼保連携型認定こども園おかだまのもり 2歳児リーダー）、谷島 直樹（九州大谷短期大学幼児教育学科 客員教授/幼保連携型認定こども園おかだまのもり 園長）	1.0	B5
ECEQ®と幼児教育の質評価	藪 淳一（（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構教育研究委員会ECEQ® 評価チーム チーム長）、天野 美和子（東海大学児童教育学部児童教育学科 講師）、矢崎 桂一郎（国立教育政策研究所幼児教育研究センター 研究員）、淀川 裕美（千葉大学教育学部幼児教育講座 准教授）	1.0	B5

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
「主体的な子どもの育成をめざして」～サークルタイムはじめました～	松下 瑞良（認定こども園湯浅幼稚園 園長）、中川 摩耶（認定こども園湯浅幼稚園 保育教諭）、土橋 紀香（認定こども園湯浅幼稚園 保育教諭）、上田 美奈子（認定こども園湯浅幼稚園 副園長）、安達 謙（大阪教育大学 非常勤講師／せりりひじり幼稚園・ひじりにじいる保育園 園長）	1.0	B5
ミドルリーダーが考える園の地域における役割・使命とは	西村 亜実（認定こども園七松幼稚園 主幹保育教諭）、岩野 志保（認定こども園七松幼稚園 保育教諭）、白野 未侑（認定こども園七松幼稚園 保育教諭）、亀山 秀郎（OCC教育テック総合研究所 上席研究員）	1.0	B5
子どもと一緒に考える保育とは	司馬 政一（幼保連携型認定こども園せいめいのもり 園長）、柳田 未那美（幼保連携型認定こども園せいめいのもり 教諭）、佐藤 瑞姫（幼保連携型認定こども園せいめいのもり 教諭）、田中 住幸（札幌大谷大学短期大学部保育科 学科長／准教授）	1.0	B5
『園』の『庭』で心が揺さ『振』られる『幅』～世界はそれを「好奇心」と呼ぶんだぜ～	岩崎 巧（森のあそびばはれのちはれ 代表／桃山学院教育大学 非常勤講師）、三倉 敏浩（豊中あけぼのこども園 園長）、藤田 勲（あけぼのぼんぼこども園 園長）、湯浅 優典（せりりひじり幼稚園 年長学年主任）	1.0	B5
個と集団のバランスから考える自律した子どもを目指す幼児教育	立田 祐理（恵庭幼稚園 指導教諭）、渡邊 日向子（恵庭幼稚園 年長組主任／教諭）、藤澤 侑香（恵庭幼稚園 教諭）、井内 聖（北海道文教大学 客員教授）	1.0	B5
ミドルリーダーの役割とマネジメント	佐々木 晃（鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース 教授）	1.5	B6
私立学校法改正に伴う寄付行為作成等について～知事所轄小規模法人の寄付行為作成事例研究～ 講義テーマ 第一部:私立学校法改正に伴う寄付行為作成等について～知事所轄小規模法人の寄付行為作成事例研究～ 第二部:私立学校法改正に伴う寄付行為作成等について～知事所轄小規模法人の寄付行為作成事例研究～	堂山 宗敬（学校法人洋光学園洋光幼稚園 理事長）	第一部 1.0	第一部 C3
		第二部 1.0	第二部 C3
令和6年度三木市教育・保育給付に係る実務者説明会兼教育・保育給付確認指導における集団指導及び条例に基づく監査における集合監査 1時間目各種加算及び配置基準の改正について	兵庫県三木市教育委員会 教育振興部 教育・保育課	0.5	C3
令和6年度三木市教育・保育給付に係る実務者説明会兼教育・保育給付確認指導における集団指導及び条例に基づく監査における集合監査 2時間目②今年度の様式について③処遇改善等加算IIに係る研修修了要件について	兵庫県三木市教育委員会 教育振興部 教育・保育課	1.0	C3
発達個人差を踏まえた幼児教育	赤塚 めぐみ（常葉大学保育学部保育学科 准教授）	1.5	D3
特別支援教育に利用する心理学	内山 敏（聖隷クリストファー大学国際教育学部こども教育学科 准教授）	2.0	D3
支援の必要な子どもとの関わり ～保育・教育にできること～	今村 幸子（鹿児島女子短期大学児童教育学科 講師）	1.0	D3
（フレッシュ～ミドル向け）自発的な遊びを通して育つもの	山下 愛実（宮崎国際大学教育学部児童教育学科 講師／お茶の水女子大学 博士）	2.0	E2
若い保育者に挑んで欲しいこと ～こどもの主体性を育む保育を考える～	富永 宏（学校法人伊敷町学園認定こども園伊敷幼稚園 理事長）	1.0	E2
園での野菜栽培I 基礎編	鮎川 剛（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	E4
園での野菜栽培II 応用編	鮎川 剛（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	E4
未来を育てる幼児教育—これからのキーワード—	肥後 功一（島根大学 名誉教授）	1.5	F1
デジタル時代の幼児教育	湯地 宏樹（鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース 教授）	2.0	F1
（幼保小連携）美しいバトンパスで幸せに駆け抜けるために～「幼保小の架け橋プログラム」から捉える幼小連携～	秦 潤一郎（別府大学短期大学部初等教育科 講師）	1.5	F1
子どもとの対話につながる大人の対話	高橋 ゆう子（大妻女子大学家政学部児童学科 教授／児童臨床研究センター 所長）	1.5	F1
職員による子供への虐待を予防するために～不適切な教育・保育を予防するために～	山縣 文治（関西大学人間健康学部人間健康学科 教授）	1.5	F2

令和7年3月に新コンテンツを配信する予定です。ゆたかなまナビをチェックして、研修の受講をご検討ください！  
**配信コンテンツにはすでに都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれておりますので、お申し込み時にはご注意ください。**